



Samsung Galaxy Note Fan Editionの分解

2017年7月12日に分解された修理済みSamsung Galaxy Note Fan Editionです。

作成者: Evan Noronha



はじめに

去年登場した[Galaxy Note7](#)はスマートフォン史上、品質をめぐって炎上しましたが、同時にバッテリーの炎上による火消しも大騒ぎとなりました。さて、今回はそのデバイスが **Galaxy Note Fan Edition**として蘇りました。早速分解を始めてみましょう。今回、炎上だけは避けてほしいものです。このデバイスの詳細な情報については [Note Fan Edition ブログニュース](#)をご覧ください。

最新のリペアニュースに関心がありますか？ [Twitter](#)、[Twitter日本語版](#)、[Facebook](#)や[Instagram](#)をフォローしてください。

ツール:

- [プラススクリュードライバー\(#00\)](#) (1)
- [iOpener](#) (1)
- [Halberd Spudger](#) (1)
- [iFixit開口用ピック\(6枚セット\)](#) (1)
- [スパッジャー](#) (1)
- [ピンセット](#) (1)
- [ハンドル付き吸盤](#) (1)

手順 1 — Samsung Galaxy Note Fan Editionの分解



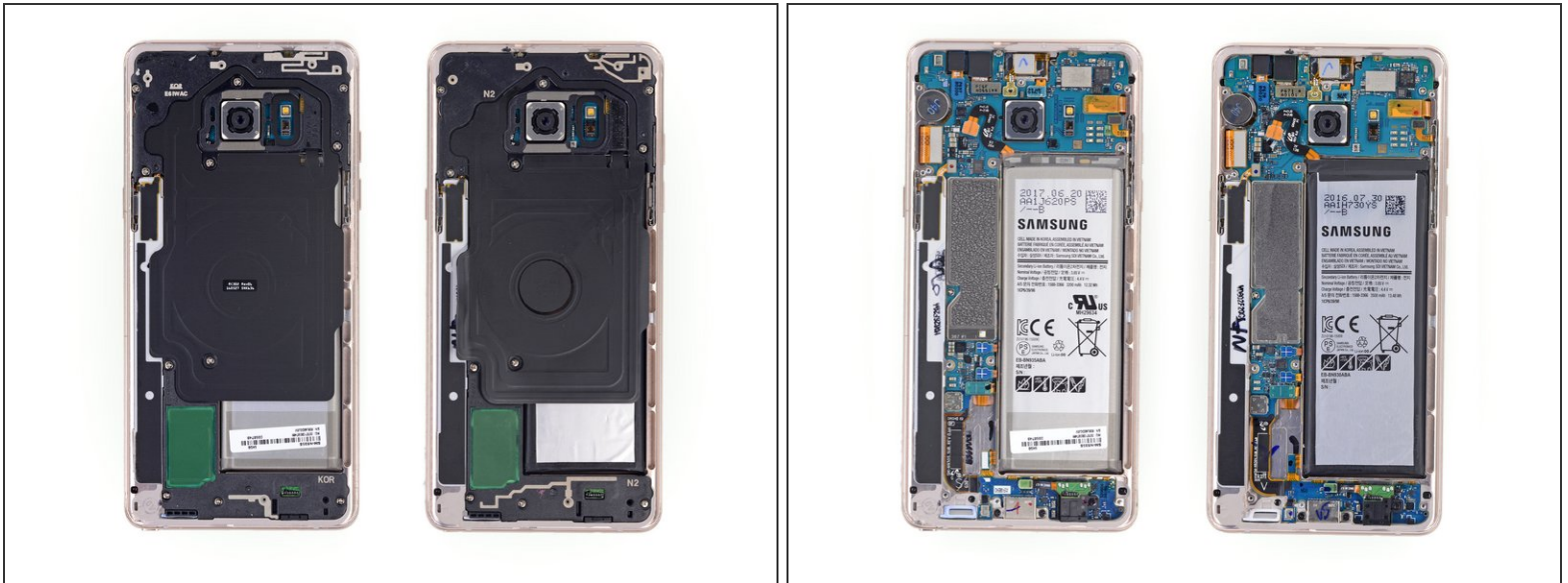
- このデバイスの[スペック](#)についてご存知でしたら、ここで一度確認してみましょう。
- カーブ状パネル 5.7インチ Super AMOLEDディスプレイ、2560 × 1440解像度 (518 ppi)、Gorilla Glass 5
- Exynos 8890 オクタコアプロセッサー、4 GB RAM + Mali-T880 MP12 GPU
- 12-メガピクセル、OIS搭載 $f/1.7$ リアカメラ、デュアルピクセルオートフォーカス、4Kビデオ; 5-メガピクセル/1080p 自撮りカメラ
- 容量64 GB、256 GBまで microSDカードで容量拡張可能
- 彩虹スキャナー、指紋認証スキャナー
- S スタイラスペン、USB-C、ヘッドホンジャック
- IP68 防水防塵機能

手順 2



- 失敗作に終わってしまったNote7本体の一部をe-wasteのゴミ箱に捨ててしまうのではなく、新しい命を与えてくれた[Samsungに脱帽](#)です。
- ① 伝えられるところによると、[400,000台](#)ほどのFan Editionが製造されたようです。400万台にも及ぶリコール数と比較すれば僅かな数ですが、[それでも無いよりはまし](#)でしょう。
- 埃をかぶっていたNote7を取り出して、両者を外見から比較してみました。まず、違いは付箋紙が留められています。
- ちょっと待ってください、付箋紙？
- そうなんです。最後にこのNote7を分解した後、[簡単なメモ](#)を残しておきました。”Samsungに返品”、”7/4用に保管”、”機内持ち込み禁止”とメモ書きしておきました。

手順 3



- 新しいNoteの裏側からガラスパネルをやっとこじ開けると(注意:[前モデル](#)と同じくらい開口は困難です)、修理済みハードウェアの内部をざっと確認できます。
- 一見したところ、何も変化は無いように見えます。しかしよく見てみると、アンテナトレースに若干の違いがあるようです。
- ① 私たちが持っている韓国系デバイスに表記された"KOR"から考えると、これは韓国のセルラーネットワークに互換性があると思われます。
- アンテナアセンブリを剥がしていくと、ついにバッテリーにたどり着きました...

手順 4

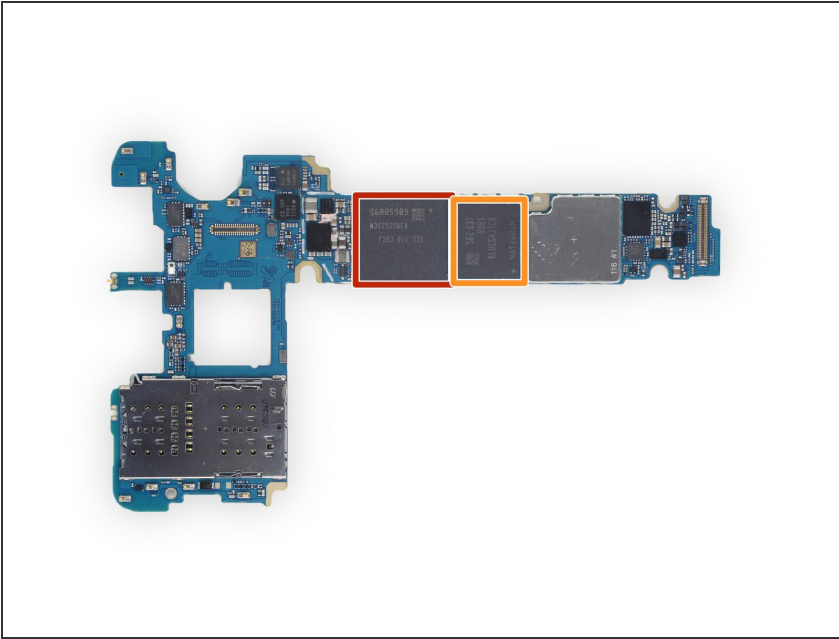


- このベビーは新品のバッテリーを与えられました。バッテリーには6月20日と製造日が付けられています。出来たてです。
- 容量は小さくなりました。 [OGであるNote7](#)は13.48 Whというサイズに対して、12.32 Whになりました。
- それでも依然として[iPhone 7 Plus](#)(11.1 Wh)と比較してみると大きな容量です。9%のダウンサイズとはいえ、このNoteが安全に機能するには十分です。

① データ好きの方向けに、新しいバッテリーは45.4 gでNote7と比べると2.3 g軽くなりました。サイズは37.4 mm x 97.2 mm x 約5.0 mm であるのに対して、Note7は37.9 mm x 97.8 mm x 4.9 mmでした。若干小さくなりました。

⚠ もしSamsungがバッテリーを取り出し可能なデザインにしていたら、リコールという大失敗を防ぐことができたという事実から目を逸らさないでおきましょう。ご存知でしょうか？ [以前は取り出し可能なデザインを採用していた](#)ということ。

手順 5



- Note7ではSamsung Exynos オクタコアに代わり、この修理済みユニットは最新のSnapdragon 821 processorが搭載されているという噂がありました。よって、詳細に調べるためCPU上のシールドを取り出してみました。
- Exynos 8890 オクタコアCPUの上にSamsung [K3RG2G20CM-CGCJ4](#) GB LPDDR4 RAM
 - ① CPUのIDを確認できるRAM上に何も表記がありませんが、Snapdragon 820/821は4コアである一方、箱はオクタコアと記載しています。どうやら最も可能性が高いのは、変更はなかったということです。
- Samsung [KLUCG4J1CB-B0B1](#)64GB UFS 2.0

手順 6



- Fan Editionはリペアビリティも含めて、Note7から何もかも受け継いでいます。
- これにて終了です！ SamsungはNote7の大失敗で手痛い経験をしたが、認めるべき功績は認めましょう。彼らは自分たちの責任に向かい合い、きちんと対応をしたのです。
- ☑ 再起不能となったモバイルが日の目を見ることを願っています！
- 私たちはこれまで Note7の大失敗について数多くの記事を書いてきました。それに加えてこの修理済みのエディションについても分析をしています。[Galaxy Note Fan Editionのブログニュース](#)をご覧ください。

手順 7 — 分解を終えて

REPAIRABILITY SCORE:



- Samsung Galaxy Note Fan Edition の修理難易度は10点満点中4点です。(10点が最も修理しやすい指標)
- 多くのコンポーネントがモジュール式で個別に交換が可能です。
- 改良されたケーブル配線によって、充電ポート用基板がディスプレイを解体せずに交換できるようになりました。
- マザーボードを最初に取り出さなくてもバッテリーの交換が可能です。しかし、頑丈な接着剤が背面パネル上に付けられており、交換作業は困難です。
- 正面/背面ガラスで覆われているため、クラック(ひび割れ)の可能性が倍になります。背面ガラス上に留められた頑丈な接着剤がデバイスの開口を妨げます。
- カーブしたデザインのスクリーンのため、ディスプレイの破壊なしでは正面ガラスの交換が不可能とされます。